

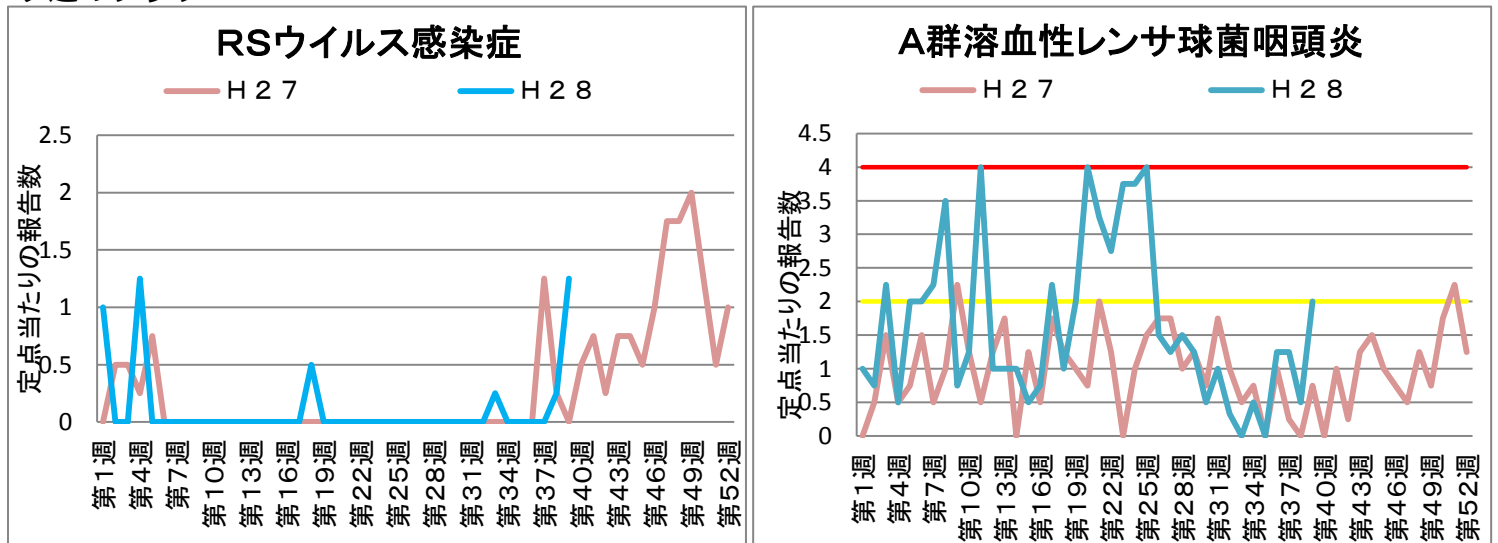
乙訓保健所管内の感染症発生動向調査による週報 (小児科定点、インフルエンザ定点)

第 39 週 平成28年9月26日 ~ 平成28年10月2日

今週のコメント

○RSウイルス感染症の報告が増加しています。0歳児と1歳児はRSウイルスに感染すると肺炎などを合併して重症化することがあるので、発熱や咳症状があれば、早めにかかりつけ医を受診しましょう。
 ○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告も増加しています。治療には、抗生物質が有効です。腎炎などの合併症を防ぐため、症状が改善しても主治医に指示された期間、抗生物質をのむことが大切です。
 ○流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)の報告も引き続きみられています。
 ○10月1日から、今年4月1日以降に生まれた0歳児を対象として、B型肝炎ワクチンの定期接種が始まりました。対象のお子さんは、1歳になる前に3回の接種を終えましょう。詳細は下記をご参照ください。
<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000134156.pdf>

今週のグラフ



* 赤線 流行警報基準値です 黄線 警報継続基準値です

今週の報告状況

疾病名	定点当たりの報告数	疾病名	定点当たりの報告数
インフルエンザ	-	手足口病	0.25
RSウイルス感染症	1.25	伝染性紅斑	0.5
咽頭結膜熱	0.25	突発性発しん	0.5
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	百日咳	-
感染性胃腸炎	1	ヘルパンギーナ	0.25
水痘	-	流行性耳下腺炎	2.25

定点当たりの報告数 = 1週間の報告件数総数 / 定点数

* 乙訓管内 インフルエンザ定点数：7箇所、小児科定点数（インフルエンザ以外の疾病）：4箇所

参考資料等

報告週対応表

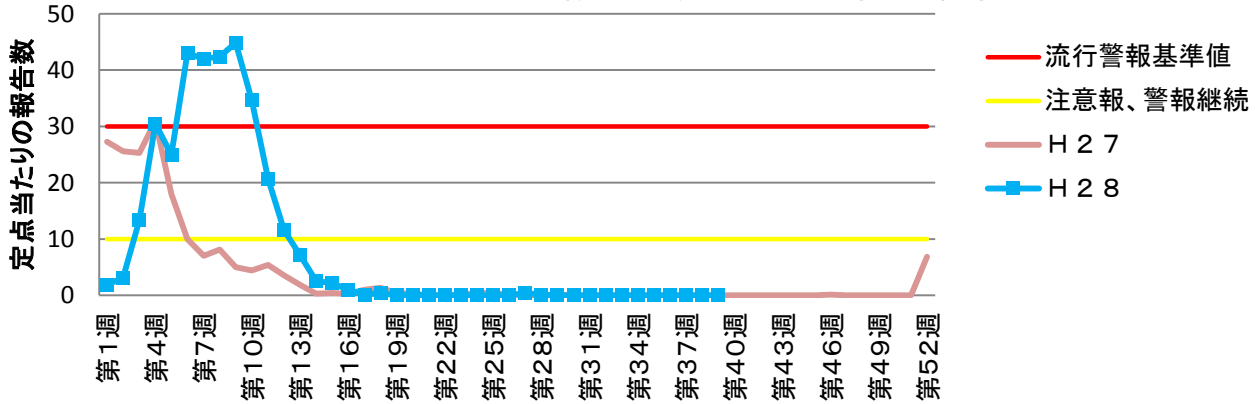
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/calendar.html>

警報・注意報基準値の説明

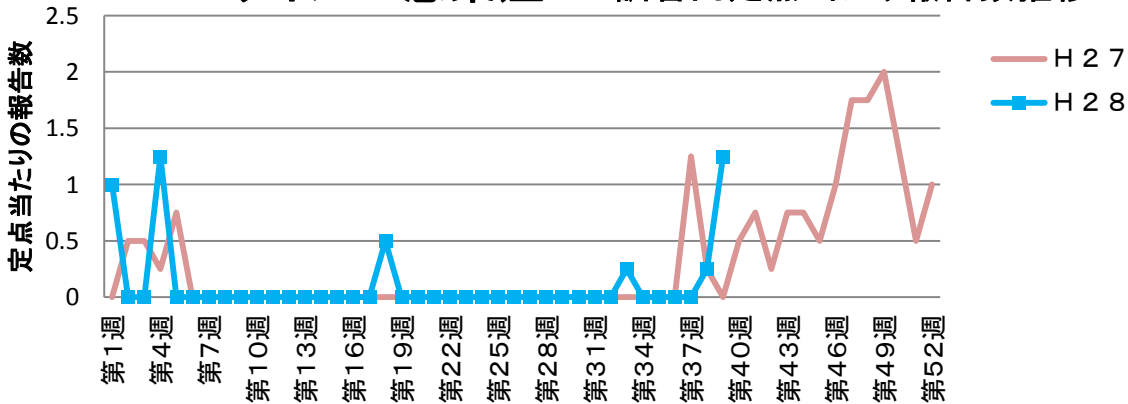
<http://idsc.nih.go.jp/disease/influenza/inf-keiho/guide03.html>

定点報告による各疾病の推移

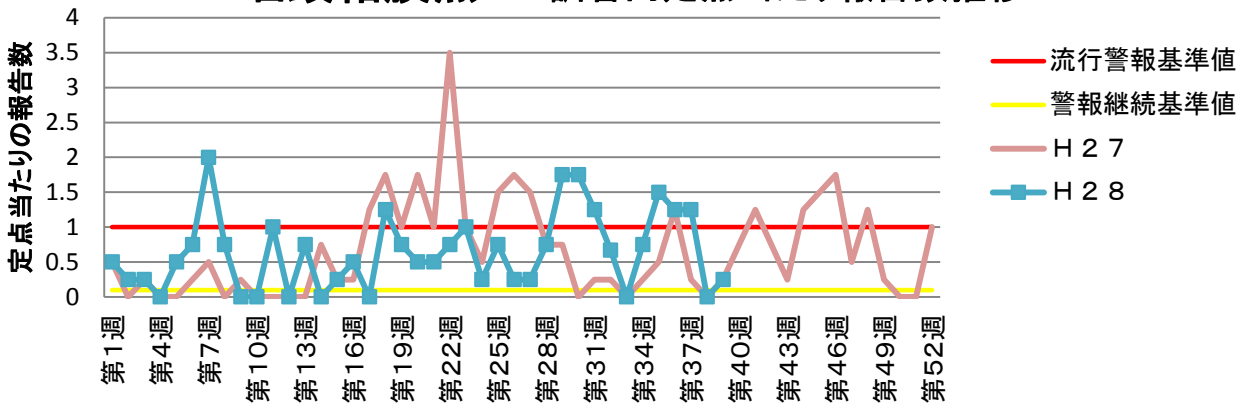
インフルエンザ 乙訓管内定点当たり報告数推移



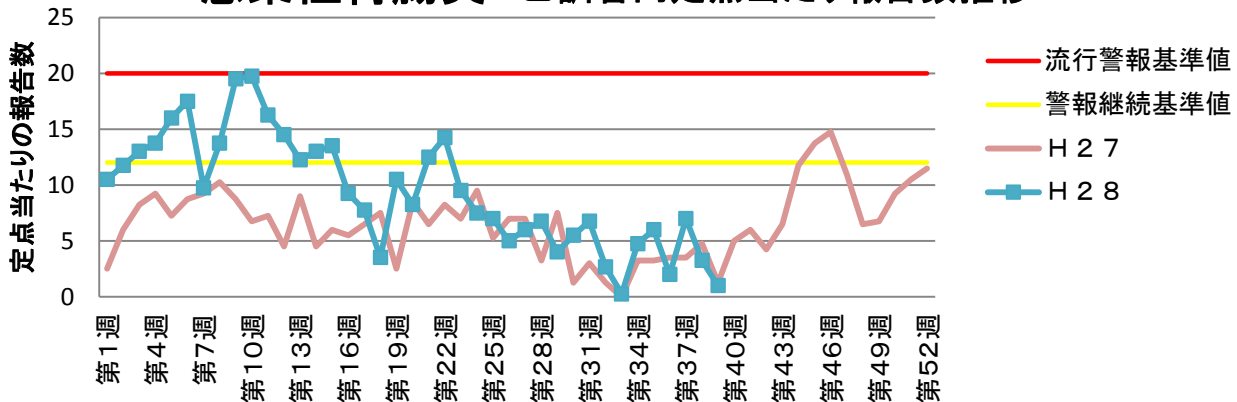
RSウイルス感染症 乙訓管内定点当たり報告数推移



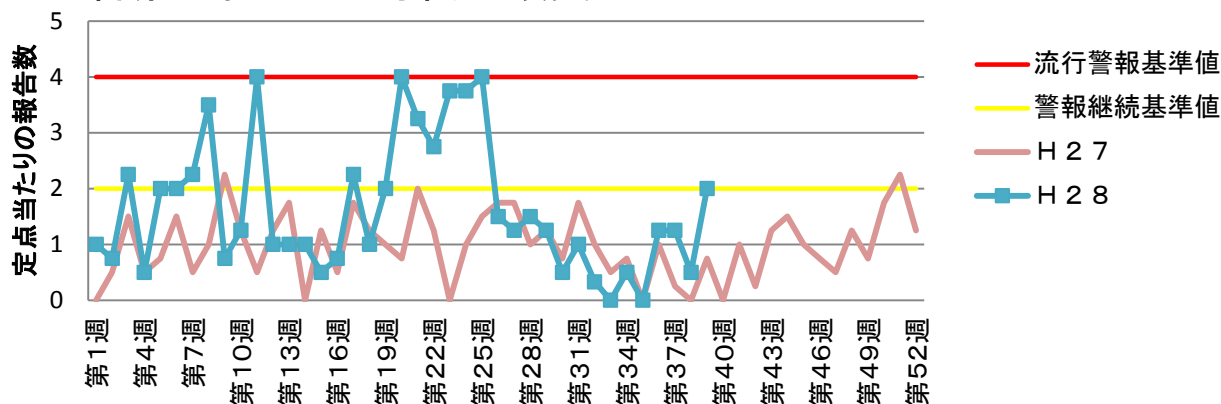
咽頭結膜熱 乙訓管内定点当たり報告数推移



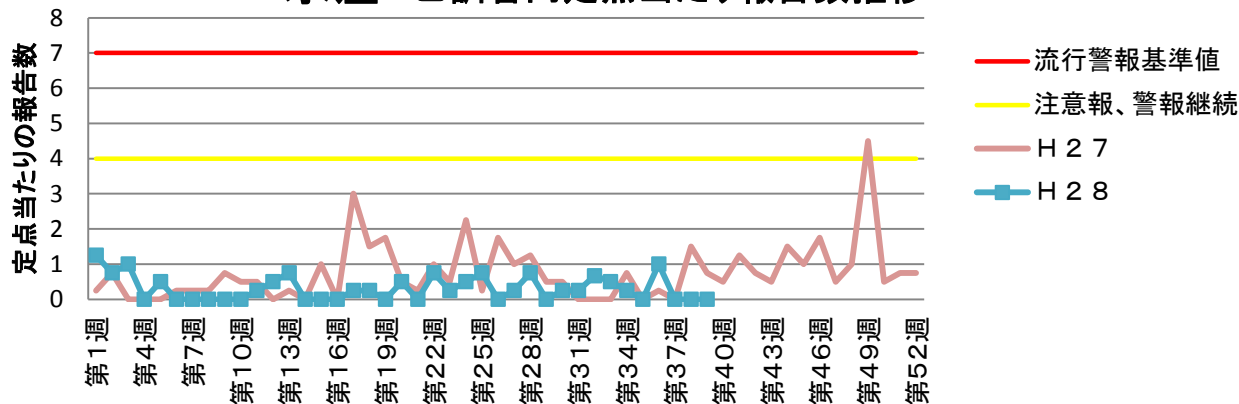
感染性胃腸炎 乙訓管内定点当たり報告数推移



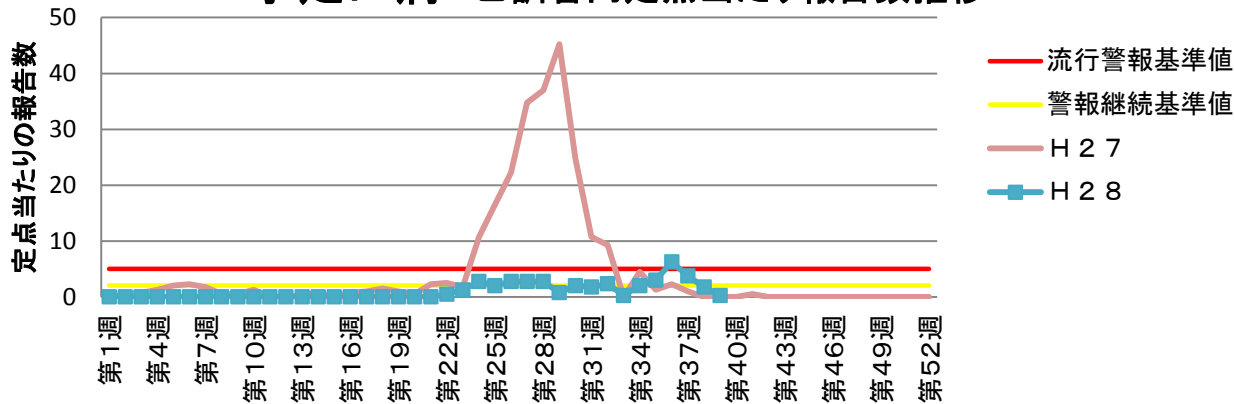
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 乙訓管内定点当たり報告数推移



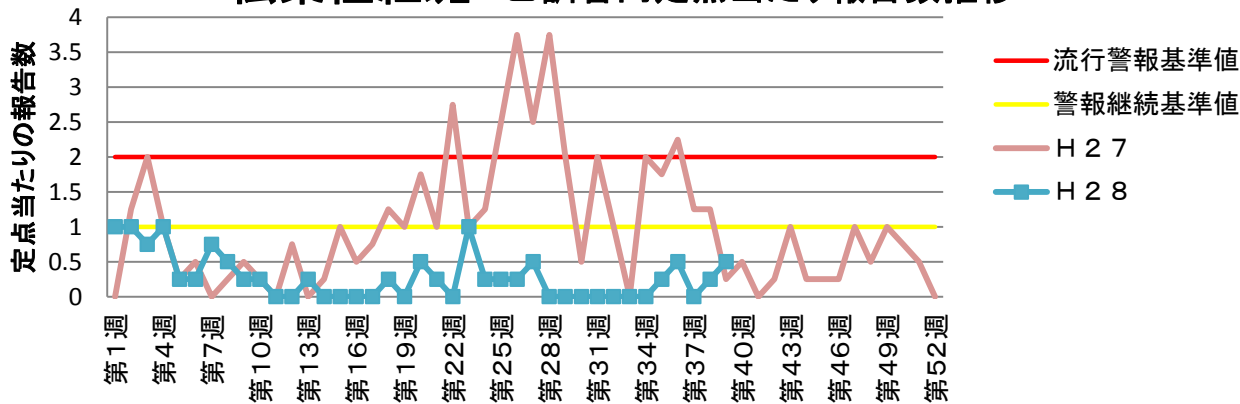
水痘 乙訓管内定点当たり報告数推移



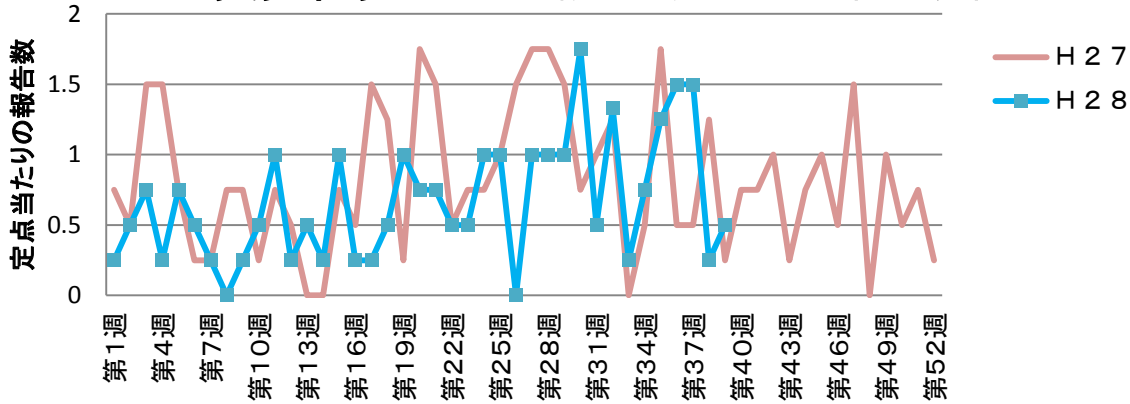
手足口病 乙訓管内定点当たり報告数推移



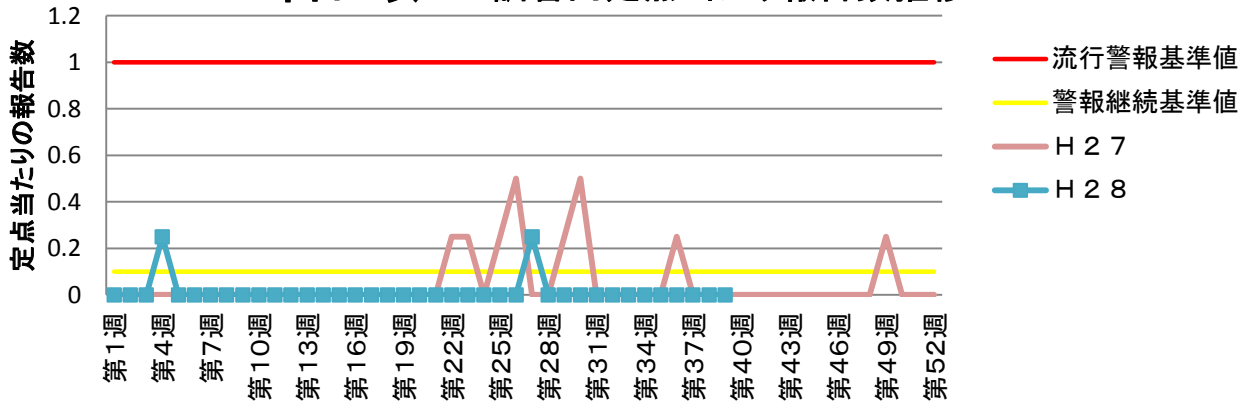
伝染性紅斑 乙訓管内定点当たり報告数推移



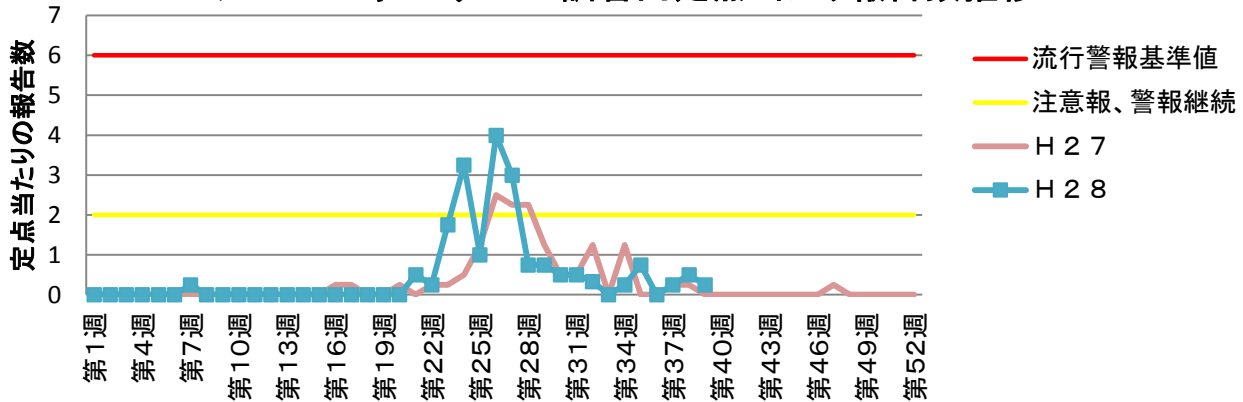
突発性発しん 乙訓管内定点当たり報告数推移



百日咳 乙訓管内定点当たり報告数推移



ヘルパンギーナ 乙訓管内定点当たり報告数推移



流行性耳下腺炎 乙訓管内定点当たり報告数推移

